

洋泉社「新・らくらくミクロ経済学入門」の購入者用の練習問題。

情報の不完全性に関する A～D の記述のうち、妥当な組み合わせはどれですか。

- A. モラル・ハザードとは、契約の成立そのものが人間の行動を変化させ、契約前に想定した条件が適合しなくなるケースをいい、たとえば、「自動車保険に入ることによって事故に対する注意が低下する現象」などがあげられます。
- B. シグナリングとは、品質の良いものを選びようとして、逆に品質の悪いものを選んでしまう可能性を防ぐための方法として、情報を持つ側が品質を表すシグナルを発信することをいい、例えば、「衣料やバックのブランド」などが挙げられます。
- C. 逆選択とは、情報を持たない側が複数の契約条件を提示して、その中から相手に選択させることによって相手の属性を顕示させる方法をいい、たとえば、「2種類の契約形態を用意した保険契約」などが挙げられます。
- D. 自己選択とは、情報の所在の偏りのせいで、本来の当事者の意図に反して質の悪いものばかりにが市場で選択されてしまう現象をいい、たとえば、「中古車市場に性能が悪い車ばかりになることを」などが挙げられます。

1. A,B      2. A,C      3. A,D      4. B,C      5. B,D

(動画解説) <https://www.youtube.com/watch?v=cuZbg2XWUQ4>

ミクロ経済学「攻略」P 319